

犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指して 次代を担う子ども達の防犯活動 ～「キラット・ジュニア防犯隊」の取り組み～

千葉県習志野市 総務部 生活安全室
安全対策課防犯係長

佐久間 心之



防犯対策の経緯

習志野市は千葉県の北西部に位置し、東京から30 k m圏内にあり、面積20.99 k m²、人口は16万人を数えます。
また、J R線をはじめとして市内に7つの駅があり、都内に通勤する居住者が多く東京のベッドタウンとして発展しています。

人口の増加と街の発展に比例し、犯罪件数も激増し、平成12年と平成14年には年間5,000件を超えピークを迎えました。

このような状況の中にあって、本市では、市民が安全で安心に暮らせる平穏な生活環境の構築が急務と考え、警察と市・市民・事業者等、地域が一体となって綿密な連携を保ちながら、本市が目指す、「自分たちのまちは、自分たちの手で守る」という「自主・自立の精神」と地域との「協働」を積極的に推進する必要性から平成16年3月に『習志野市犯罪のない安全で安心なまちづくり条例』を制定するとともに、同年4月に防犯対策を推進するための体制整備として、生活安全室安全対策課を設置いたしました。

また、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、条例の実効性を確保するための基本計画の策定を行い、平成17年3月に施行いたしました。

キラット・ジュニア防犯隊の誕生

地域における犯罪を未然に防止し、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するために、各関係機関・団体がそれぞれに連携を図りながら活動を展開していく中で、子供たちへ視点を置いてみると、(子どもたちの安全・安心はどうなっているのか？昨今の子供たちを取り囲む環境は？) 犯罪の低年齢化や凶悪犯罪に巻き込まれる事件の発生と、決して守られてばかりの環境だけでは防ぎきれものではない現状があることに気づき、そのためには、子どもたち自身がまず、規範意識と危機回避能力を養うことの必要性が生じました。

そこで、市内小学校・中学校の児童・生徒のうち小学5年生から中学2年生までを対象として防犯ボランティア活動を展開し、この活動を通じて、子供たちの目線から見た施策を防犯対策に盛り込むとともに、就学时より防犯について啓発等の意識付けを行い、自主・自立の防犯対策や犯罪に対する罪の認識を持たせ青少年の健全育成の推進に繋げることを目的とした『キラット・ジュニア防犯隊』が平成17年7月に誕生いたしました。



「キラット・ジュニア防犯隊」誕生会

活動期間は毎年4月から翌年3月までの1年間とし、

- ① 犯罪の被害者に「ならない」
- ② 犯罪の加害者に「ならない」
- ③ 犯罪を他の人に「させない」

この3つのスローガンを掲げ活動を行っております。

	参加登録人数
平成17年度	84名
平成18年度	119名
平成19年度	167名
平成20年度	195名
平成21年度	144名
平成22年度	133名

主な年間活動内容

① 防犯啓発キャンペーン

- I 本市では、毎年10月を安全で安心なまちづくり月間と定めており、月間中には、市内7駅において、市・習志野警察署・地域自主防犯団体、そして隊員が協力して、「街頭啓発キャンペーン」と題し、防犯啓発チラシの配布を行います。
- II 毎年10月に開催される防犯講演会において、習志野警察署職員と防犯劇を共演し、来場者の方々へ防犯PRを行います。
- III 習志野警察署が主催する「歳末防犯キャンペーン」に参加し、防犯啓発チラシの配布を行います。
また、参加する小学生隊員数名が一日警察官の委嘱を受け、警察官の制服を身に纏い活動をいたします。



街頭啓発キャンペーン

② 市民まつり

毎年7月に本市が開催する「習志野きらっと」市民まつりのオープニングパレードに参加し、活動PRを行います。

また、まつりメイン会場において来場者に対し防犯啓発チラシを配布する他、本年度におきましては、防犯意識に関するアンケート調査を行いました。

このアンケート調査の結果を集計し、隊員達の見線から防犯意識の高揚及び対策を図るにはどうすればよいのか勉強会を開き、各班に分かれ研究・討論し、10月に開催した防犯講演会において活動発表を行いました。



市民まつり オープニングパレード

③ 自転車防犯診断

自転車盗難抑止対策の一つとして、市内7駅に設置されている市営駐輪場のうち自転車盗難被害が多発している駐輪場をピックアップし、市・習志野警察署・地域自主防犯団体と隊員と一緒に、自転車に「カギが2つ以上かけられているか」、「防犯登録されているか」など、防犯診断を行い、荷札により注意喚起を年2回実施いたします。



自転車防犯診断

④ 防犯マップ作製

市内の小学校・中学校の1学区を選定し、学区内（地域内）における犯罪が発生しそうな「危険な場所」などを各班に分かれ現地調査を行い、マップを作製し各班の成果を発表いたします。

また、現地調査を行った学区（地域）の隊員は、自校の仲間達に危険な場所について報告をしてもらい防犯意識の高揚を図ります。関連し、市からも学校関係者や地域防犯団体等に報告をし、危険個所の回避を推進し地域一体となった防犯体制を整えております。



防犯マップ作成

⑤ その他

毎年開催する総合防災訓練に参加支援し、救出救護訓練や初期消火訓練などにも参加・体験をしています。

活動から出た意見を反映

キラット・ジュニア防犯隊の活動で、子ども達の目線から感じた防犯対策意見を実際に市が防犯施策に盛り込んだものもあります。

- ① 防犯マップ作製で危険と感じた場所について、木が覆い茂っていて見通しが悪い箇所や薄暗い通りについて、樹木の剪定や防犯灯の取付等、市が行えるものは積極的に実施いたしております。市民まつりで「防犯アンケート調査」を行い、その中で子ども達が危険（こわい）と感じる時間帯が17時から18時との意見が多かったことを受け、地域の自主防犯団体の方々にパトロールの協力依頼をするとともに、本市においても、管理職職員による青色回転灯車両2台を使用した特別防犯パトロールを毎日17時から19時まで実施いたしております。



市民まつり アンケート調査

- ② 「防犯アンケート調査」の中で、市民が欲しい防犯の情報内容は何かを調査したところ、「犯罪の手口・場所」、「具体的な対策」を詳しく知りたいとの要望があったことから、市ホームページに掲載している、犯罪発生状況コーナーの掲示について、習志野警察署協力のもと、罪名・手口及び各コミュニティの丁目まで絞った内容を月2回掲載更新するよう致しました。

安全で安心なまちづくりへ

「キラット・ジュニア防犯隊」に参加した子ども達が隊員期間を終え、意見や感想などを聴取すると、犯罪を無くすためには自身の気構えや行動をどうとるべきか、防犯活動を通じてたくさんの地域の人達との触れ合いや関わりが持て楽しかったことなどが多く、子ども達が入隊当初に比べ明らかに意識の変化、成長が伺えます。このことは、本市が活動を通じてねらう「自主・自立の防犯対策を身に付ける」や「青少年健全育成の場づくり」の基礎が固まりつつあると思われます。

また、教育現場サイドからは、防犯活動を行った経験をキラット・ジュニア防犯隊の隊員が学校内で児童・生徒あるいは先生方に報告を行っているようで、「学校内においても防犯意識の高揚が図られてきている。」と言った声を頂いております。

「キラット・ジュニア防犯隊」を設置してから6年が経過しようとしておりますが、就学時から防犯意識を高める機会を創ることにより、子ども達の保護者、あるいは地域の自主防犯団体の方々においても子ども達と触れ合う場ができ、子ども達が頑張っている姿に刺激され、大人達も頑張らなければと相乗効果が生まれてきております。このように本市における防犯活動の輪は、年々大きく広がり、市域全体での防犯意識も高まり、「自分たちのまちは、自分たちの手で守る」という理念が浸透しつつあり、犯罪件数は年々減少の一途をたどり、平成21年度は、2,789件でピーク時に比べ約半分の犯罪件数となっております。

今後も、警察と市・市民・事業者等、地域が一体となって綿密な連携を保ち、防犯活動を地道に根強く継続し、現在の防犯体制を更に充実させていくことを課題に「地域一体型の防犯活動」を推進し、「犯罪のないまち習志野」を目指し活動に取り組んでまいりたいと思います。



歳末防犯キャンペーン